

令和3年度（2021年度）第2回企画編集部会 次第

日 時 令和4年3月2日（水）10：00～11：30
場 所 北海道立道民活動センター（かでの2・7）5階510会議室
出席者 桑原真人編集長、坂下明彦副編集長、奥田仁委員、小内純子委員、
谷本晃久委員、平野友彦委員、山崎幹根委員
欠席者 横井敏郎委員
事務局 道史編さん室（吉原、杉本、最上、和田）

1 開会

2 議事

- （1）掲載資料情報の配置について
- （2）『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』の掲載資料・解説文について
- （3）編さんスケジュールについて

3 閉会

1 開会

吉原室長

- 開会に先立ちまして、本日横井委員が欠席されていますが、委員8名のうち7名の出席により会議が成立しておりますことをお知らせいたします。

桑原編集長

- それでは、ただいまから令和3年度、第2回企画編集部会を開催いたします。いよいよ新年度には、『北海道現代史』の資料編第2巻が出ますが、後世の評価に値するようなものを出したいと思います。皆さんよろしく願いいたします。
- まず、産業・経済部会の委員に異動があったということなので、事務局から報告をお願いします。

吉原室長

- 金融と観光を担当されておりました佐藤委員が、2月末をもって退職されました。当面、金融については坂下部会長が、観光については奥田委員が担当されます。

桑原編集長

- 次に、本日の会議の進め方について、事務局から説明をお願いします。

吉原室長

- 次第をご覧ください。
- 議事1については、第1回企画編集部会で協議された出典等の配置の場所について、さらに改良案がございますので、協議をお願いしたいと思います。
- 議事2については、前段、簡単に事務局から説明した後、前回同様、坂下産業・経済部会長の進行により協議していただきたいと思います。
- 議事3については、年表の取扱いを中心に、編さんスケジュールについて事務局から説明させていただきますので、ご意見、ご質問協議いただきたいと思います。
- 本日の配付資料については、資料1、資料2-1、2-2、資料3となっております。
- 資料2-2は、事前に配付した解説文の追加分です。小川委員の解説文については、事前配付では査読していないものでしたので、査読が終わったものを掲載しています。また、奥田委員と韓委員の解説文については、次回の企画編集部会に提出する予定でしたが、今回の部会前に提出していただいたので、部会長の査読は済んでおりませんが、掲載資料の審議の参考になると考え、掲載させていただきました。

2 議事

(1) 掲載資料情報の配置について

桑原編集長

- それでは議事に移ります。議事1について、事務局から説明をお願いします。

吉原室長

- 資料1をご覧ください。
- 第1回企画編集部会で、掲載資料について、出典の配置場所が資料の末尾では

わかりにくいので、冒頭に配置する方がよいということになりました。

- 1は、それに基づいた配置の方法で、12月13日に開催した産業・経済部会においては、この書き表し方で資料を作成し、協議しました。「1969～82年」と記載がありますが、これはこの資料の内容に基づく時期を表しています。
- 次に2ですが、その後、解説文と掲載資料とを並べてみていく内に、資料の内容を示す時期が、出典の発行時期と大きくずれる資料もある上、やはり出典の刊行時期こそしっかりと記載することが必要ではないかとの御意見があったので、出典の刊行年月日は必ず記載することとして、それと内容とでズレがある場合はそれも最後に「三角括弧」で書くということにしてはどうかということで、本日、ご持参いただいた掲載資料はこの方法で作成してあります。
- 次に3ですが、今日の部会に向けて坂下部会長と奥田委員とで詰めていくなかで、両方の時期が並ぶと区別がつきにくいということで、さらに改良したものです。タイトルの直後には、三角括弧で括って掲載資料の中で記述されている時期を表します。その次に、出典があって、出典の発行時期がその後ろにきます。出典の発行時期の記載の仕方は、年は西暦だけとしています。
- 図書の場合は年のみ、雑誌や新聞については、月や月日を記載するようにすると、それほどうるさく見えないのではないかと思います。内容に基づく時期が出典の刊行時期と同じ場合は、刊行時期のみ記載します。
- お手元の掲載資料の第3章は、試みにこの方法で表示しています。
- 資料編は、3番のような表示方法で進めたいと考えておりますが、ご協議いただきたいと思っております。

桑原編集長

- 事務局から説明がありましたが、坂下委員と奥田委員は何か補足されることはありませんか。

坂下委員

- 資料の内容を表す時期は先に出す方がいいとしまして、また、資料の発行年は、図書の場合は年だけ、新聞は月日まで、月刊誌は月まで入れるという形で簡略化するという考え方です。

桑原編集長

- 奥田委員、いかがでしょうか。

奥田委員

- そのとおりです。

桑原編集長

- 皆さん、ご意見やご質問ありませんか。特になければ、そのように進めることにして、次の議題に移ります。

(2) 『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』の掲載資料・解説文について

桑原編集長

- 次に議案2についてですが、まず私から一言お願い申し上げたいと思っております。前回からの繰り返しになりますけれども、道史編さん委員会へは、企画編集部会で十分練った上で、成案を提出する必要があります。第1回の部会では、解説文

がない状態での審議だったために、資料を掲載する視点がわからない部分などもあったと思いますが、今回は、解説文を見ながら改めて掲載資料を読んでいただいたと思いますので、忌憚のないご意見を出していただき、活発な議論をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

- それでは、事務局の説明の後は、坂下委員の進行でよろしくお願いいたします。

吉原室長

- まず資料2-1をご覧ください。これは、第1回の部会同様に作成した、集約状況です。
- 右上に「解説(988字)」とありますが、これは、前回の部会では1ページあたり850字としていたのですが、今回、掲載資料と解説文を合わせますと、結構オーバーしていたので、資料の最後に1行説明文を付しておりますが、行間と字間を少し狭めて、1ページ当たり988字としてみました。こうすると、目標1,000ページに対して現在1,030ページとそれでも若干オーバーしていますが、この程度であれば、許容範囲ではないかと考えております。坂下先生、奥田先生から補足などありましたら、後ほどお願いいたします。
- 掲載資料、解説文の詮議に関しては、内容はもちろんですが、最終的には答申の後、道として発行していくものですので、文章表現などについても、お気付きの点があれば、ご指摘いただきたいと思います。また、用語の統一がとれておりませんので、その点につきましては、事務局としてチェックしていく必要がありますが、お気付きの点があれば、併せてご指摘いただければ誠にありがたく存じます。

坂下委員

- それでは、司会を担当させていただきます。先ほども説明ありましたが、佐藤委員には、資料の方はかなり集めていただいていたのですが、解説文を書く前に辞任されることになりました。本日配付された9章は、皆さんまだ目を通していらっしゃらないと思いますので、次回の審議に回したいと思います。
- 原稿は、全体的に少しずつ長かったのですが、事務局の方で組み直しをしていただいて、字数調整で大体収まったということでちょっと安心しております。
- 1章から進めさせていただきます。節立ては章ごとにいろいろなタイプがあるのですが、1章の場合には、執筆者ごとに1節、2節という形になっています。ご質問、ご意見ございますか。誤字などの細かいことでも結構ですので、ご指摘いただくと助かりますのでよろしくお願いいたします。

桑原編集長

- 参考文献を挙げていない人がいますね。

坂下委員

- 執筆方法の説明の際に、「主な参考文献」ということにしたものですから。執筆者によっては、通史で挙げるので解説文では基本的にはなくてもいいかなということで、ここでは挙げていないということになっています。

桑原編集長

- 挙げている人と挙げていない人がいるとまちまちな感じもします。2~3点でも、挙げられる人は挙げるようにしてはどうですか。検討してください。

坂下委員

- そうですね。対象期間が長く難しい面もあると思いますので、どうしてもということではないと思いますけれども、載せられるようであれば参考文献を挙げてもらおうということにしたいと思います。

桑原編集長

- 人名がいくつか出てきますが、フルネームで所属を入れておくといいと思います。

坂下委員

- 当時の所属ということでもいいですか。ほかもチェックいたします。

谷本委員

- 資料編の出典の表記なのですが、文書館の公文書に関しては、請求番号の記載があり、別の資料では請求番号がなく、これは出版物の場合は請求番号は入れないという原則があるのかなと思うのですが、確認させていただきたいと思います。

吉原室長

- 一次資料の場合は請求記号を入れ、出版物の場合は省いております。

平野委員

- 資料に附属する表についてですが、これから全体的に調整するのでしょうか。

吉原室長

- 表のレイアウトのバランスが悪いことに関するご指摘と思いますが、これは原稿の内容が分かるようとりあえず置いたもので、印刷発注時にきちんと作表していただくイメージでおります。刊行時にはきれいなレイアウトになると思います。

坂下委員

- 原稿のままではなく、新しく組み直すということです。古い資料には読みにくいものもありますので、統一してやっていただくということになると思います。

小内委員

- 解説文のスタイルについてですが、「資料○は…。資料○は…。」というように説明していくタイプと、文章の中に組み込んでいるタイプとあって、少々気になったのですが、解説文を書くときのマニュアルのようなものはあるのでしょうか。
- また、例えば「一村一品運動」について、資料を見ればいつ始まったかわかりますが、解説文における年号はどうするというような書き方のポイントはあるのでしょうか。

坂下委員

- 資料番号で文を始めるか、文に組み込むかは、基本的には執筆者にお任せしています。
- 資料の年代については、節ごとに、初出は西暦と元号を並記し、以降は西暦のみで元号は省くということで統一してあります。
- 解説文は字数に限りがあるため、資料の方で内容を表す時期を記載する工夫をすることにして、解説文ではあまり細かく入れないようにしています。ほか、よ

ろしいでしょうか。

- 2章の農業は3名で執筆しています。
- 参考文献については、章の末尾ではなく、変則的に執筆分担ごとに挙げています。ご質問ご意見お願いします。

平野委員

- 掲載資料のタイトルはゴシック文字となっていますが、ひとつの資料に対し、複数の資料が①「タイトル」、②「タイトル」とぶらさがっている場合、それらは本文と同じく明朝体ですが、埋没してしまうので、ゴシックにしてはいかがでしょうか。

坂下委員

- そうですね、ゴシックにした方がわかりやすいですね。よろしいでしょうか。
- 続きまして、3章の林業です。この章は、通史的な感じがします。章によって、また、一人で書くか、複数で書くかでも形態が異なりますが、いたしかたないと思います。いかがでしょうか。

谷本委員

- 解説文の末尾に注が出てくるのですが、これは何に対する注でしょうか。

坂下委員

- これは、解説文の始めの方にある用語に関する注です。

谷本委員

- それでしたら、注1というようにして、本文の該当箇所にも番号を振るなどしてはいかがでしょうか。

坂下委員

- 注はひとつだけなので、該当する用語がある箇所に置いてわかりやすくしたいと思います。ポイントを小さくすると読みやすいかもしれません。
- 次に第4章です。第一次産業の分野は、相談した訳ではないのですが、通史的な似たようなパターンでまとまった感じになっていると思います。よろしいでしょうか。
- 第5章は工業・情報通信ですが、すぐ節が始まるのではなく、章をまず【工業（資本財）】、【工業（消費財）】、【情報通信】の三つに分け、それぞれの中に節が来るようにしています。複雑なものを苦勞して整理されているので、章と節の間にこのような中間のものを設けてもいいことにしています。この章では参考文献が大量に挙げられているので、私から、主な参考文献に絞るようお願いはしてあります。御意見があればお願いします。

桑原編集長

- 解説文の冒頭で、日本製鉄の分割とありますが、分割後の社名（八幡製鉄と富士製鉄）を具体的に入れてはどうでしょうか。

坂下委員

- 解説文の字数がオーバー気味なので、資料を読んでわかることはできるだけ削るようにしたのですが、解説文が何を言っているのかわかるよう、具体的な説明も必要だなという感じもします。

桑原編集長

- 同じようなことがほかにもあるかもしれないので、きちんと見てください。

坂下委員

- はい。

小内委員

- 情報通信に関してですが、通信インフラと言えばこうなのかもしれませんが、普通は、新聞・ラジオ・テレビが代表的だと思います。新聞産業では、北海タイムスの倒産、業界紙が頑張っていることなどあると思いますが、取り上げないのでしょうか。

奥田委員

- ここでは主要な産業という視点で取り上げています。社会的に言うと新聞や出版は非常に重要であり、もちろん産業としても重要であるわけですが、ここに掲載しているものは、経済を構成する上で落とせない産業ということで、工業は経済学的に見れば資本財と消費財に分かれる。それからもう一つの視点として、やはり近年特に重要なものとしての情報産業で、資料編をまとめる上でこれはやはり落とせないだろうということです。情報通信を一つの章にしてしまうという考え方もあったわけですが、そうすると章の数が余りにも増えてしまうので、隅付き括弧（【】）で括って表す形にまとめた訳です。隅付き括弧は、7章、8章、9章でも使っています。

坂下委員

- 章のタイトルに「・（中黒）」があるものは、隅付き括弧を使っています。独立した章にすると章が多くなりすぎるので、近い性格のものをまとめて章立てしたというわけです。資料編は通史と異なり、資料を置き、解説していくものなので、あまり細かくする必要はないかと思います。
- 次の6章の商業は、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- 第7章は建設業・交通で、隅付き括弧で分けています。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

桑原編集長

- 解説が詳しいですね。交通は熱心に書いてあります。字数はオーバーしていませんか。

坂下委員

- 最初から割当は8ページで、オーバーはしていません。
- 第8章は鉱業・エネルギーです。資料2-1に「8 石炭・エネルギー」とありますが、正しくは「8 鉱業・エネルギー」です。この章も、隅付き括弧で分けています。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- 第9章は、先ほど説明がありましたように、お2人から提出されていますが、チェックが終わっていないので、審議は次回にさせていただきます。
- 最後に10章の労働運動です。後から編さんに加わっていただきましたが、かなり一生懸命やっただいております。よろしいでしょうか。
- 9章を除き、1章から10章まで、コメントをいただきましたので、もう少し工夫していきたいと思います。

桑原編集長

- 坂下委員、ご苦勞さまでした。今回出された意見については、産業・経済部会で次回までに対応いただくようお願いいたします。

(3) 編さんスケジュールについて

桑原編集長

- 次に議事3について、事務局から説明をお願いいたします。

吉原室長

- 資料3をご覧ください。編さんスケジュールについてですが、令和2年度の部会でお配りしたものに、時点修正をかけております。
- まず、年表について、説明させていただきます。編さん計画で『北海道クロニクル』と一緒に令和9年度に刊行することとしています。
- この年表については、令和2年度の企画編集部会において、事務局から、次のような主旨の提案をしております。「事務局では、1970年代までの記載がある『新北海道史年表』に新しい部分を補足するという増補・改訂作業に着手しており、文言の見直しや修正ができれば、令和3年度末には暫定版としてウェブに上げることができないかと考えております。」
- このとき、文言の点検については前近代小部会の谷本小部会長と、近現代小部会の小川委員とにお願いするということが了承されました。
- それに従い、今年度に入って、谷本小部会長と小川委員に点検をお願いしたのですが、そもそもどのような視点で点検をするのか。前近代小部会も近現代小部会も、『北海道クロニクル』をどう執筆していくか検討するため、それぞれ先行研究を洗い出して整理作業をしているという段階であり、年表を点検する方針となるようなものはないという隘路にぶつかってしまいました。
- 編さん計画をたてた際は、事務局が年表の増補・改訂作業を行い、委員のどなたかが点検するというように想定し、部会も立てないこととしたのですが、今回、お二人に点検をお願いしてみて、それほど簡単なものではないのではないかと結論に至りました。『北海道現代史』の通史編や『北海道クロニクル』の編さん作業を行う中で、例えばいつの時代から書き起こすのかといったことも含めて、しかるべき検討をしていただく必要があるのではないかと考えております。
- つきましては、年表の発行は、編さん計画のとおり最終年度とし、ウェブでの暫定版の発行は行わず、今後、年表の編さん方針等を検討していくということでよろしいか、まずはご協議いただきたいと思います。
- それでは今後どのように検討していくのかということになりますが、ここで、他のスケジュールについても、現時点の見通しを説明させていただきたいと思います。
- まずは、『資料編3』の行をご覧ください。社会・教育・文化部会も、政治・行政部会も、産業・経済部会同様、コロナ禍の影響等で進捗の遅れに苦しんでいる状況です。ただ、『資料編2』の編さんで要領がわかった部分もありますことから、『資料編3』については、2～3か月は早めに動けるかと考えております。

- 具体的には、社会・教育・文化部会では、3月末までに分担の1.5倍程度の資料集めを行うこととしています。その裏で、事務局では、筆耕作業を行います。4月は、集まった資料の筆耕原稿を部会全員で共有し、6月までに資料の精査を行います。5～6月には目次案の検討も行います。『資料編2』ように分野別とするのか、それとも、時代区分をして横断的にいろいろな分野を載せていくのかなどについて検討される予定です。そして、正式ではありませんが、可能な委員には、上半期のうちに解説文を書き始めていただければと考えております。そうすれば、目次がどちらのパターンになっても、執筆に取りかかりやすいですし、9月頃には企画編集部会での掲載資料の審議が始まるようにしたいと考えておりますが、その際にも、解説文の下書きができていれば、資料を選んだ理由等について分かるので、審議しやすくなると考えております。
- 次に、『通史編1』のところをご覧ください。資料編2の審議の区切りがつかまりましたら、企画編集部会で『通史編』の構成等についての検討に入っていただく必要があると考えております。令和4年度の上半期で構成や分担をするように書いてありますが、産業・経済部会は資料編を仕上げても、3番手の政治・行政はまだ資料が集まりきっていない状況なので、上半期に検討しきれないかもしれませんが、産業・経済部会の方であまりに間延びした感じにならないようなことも考え合わせていくことが大切であると考えております。
- 通史編2については、通史編1から1年遅れの刊行ですが、スタートは合わせておくのがよろしいと考えております。
- 『北海道クロニクル』については、編さん計画上、上・下巻で構成し、考古から現代までをわかりやすく叙述するというふうに位置付けられております。従いまして、概説部会は前近代・近現代の小部会で構成しますが、現在のメンバーでフルメンバーというのではなく、政治・行政、産業・経済、社会・教育・文化の各部会は、まずは資料編や通史編の作業に傾注せざるを得ないという状況ですが、ゆくゆくは、その中の1名ないし数名が近現代小部会に合流し、概説部会の体制が完成するというイメージとなります。
- そのため、概説部会でどのような体制で取り組んでいくかということや、叙述範囲・構成等を検討していく必要があります。
- こういった流れの中で、年表の方向性も検討していくこととなると考えております。
- 事務局の経験が乏しく、『資料編2』の刊行という直近の目標で手一杯であることと、また、事業発足以来、資料調査が活動の柱となってきましたが、今後は、企画編集部会における審議内容が多層化していくこととなります。
- 事務局の業務量も多く、先生方には日頃ご迷惑をおかけすることが多々あり、誠に申し訳なく思っておりますが、今後の様々な検討事項について、少しでも余裕をもって取り組んでいただけるよう、情報の共有や準備作業に鋭意取り組んで参りたいと考えております。
- スケジュールについては、今後も時点修正をかけていくものですが、前回のスケジュール表と変わる部分もありますので、まずは、本日、御質問や御意見等いただき、検討する事項があれば第3回企画編集部会までに調整等を行い、第3

回の部会で当面のスケジュールとして了承いただければと思います。

桑原編集長

- ただ今、事務局から、年表は、編さん計画どおり、最終年度の発行とする必要があること、併せて、今後、『通史編』、『北海道クロニクル』の体制作りにについても検討していく必要があることについて、説明がありましたが、御質問、御意見はありませんか。

坂下委員

- 通史についてですが、産業・経済部会では、通史に近いことを考えながら解説を書いている委員もおり、時間をおかずに速やかにやってしまいたいという感じもあります。自分がどれぐらいのボリュームで書くのかで心がけも変わりますので、通史はページ数も大体決まっていますし、大ざっぱに割り振るぐらいをしていただいて、部会の中で、暫定的にこれぐらいの分量でお願いしますということ、早めにやっておきたいと思っています。一般的には画期ごとに割ってはめ込むような仕組みで執筆すると思うのですが、下巻の刊行年度が1年遅れるにしても執筆は上・下巻一緒に進めるのが基本になると思うので、少し早めに大枠をお願いしたいと思っています。

桑原編集長

- 通史編の上巻と下巻をどこで分けるかといった議論もしていないので、そういうことも含めて、全体のボリュームとか1人当たりの枚数とかいう原案を事務局で用意できますか。

吉原室長

- 産業・経済部会の、資料編の執筆が済んで温まっているうちに通史の執筆をしたいというお気持ちはよくわかるのですが、他県の現代史の目次例などを分析して、そういうものを題材にしながら、企画編集部会において、構成やボリュームなどについて検討していただくのがいいのではないかと考えています。暫定的なボリュームを決め、執筆した後になって方向性が大きく変わったりすると、返って負担になるかとも思いますので、当面は『資料編2』に傾注し、来年度、企画編集部会において検討いただくというふうに考えているところです。御意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

坂下委員

- 今は事務局も忙しいと思うので、『資料編2』の見通しができたらということ、結構だと思います。

山崎委員

- 本日審議している解説について、査読をこれからされるということなのですが、どのぐらいの期間でどの程度なさるのか、スケジュールと作業量について確認させてください。

吉原室長

- 解説文が委員から提出される都度、坂下部会長にお送りし、チェックしていただいております。今後は、本日も指摘があったことについて、産業・経済部会の各委員にお戻しして修正していただくということと、用語の統一ができていないので、桑原編集長、坂下委員、奥田委員にご意見をいただきながら調整していき

たいと考えています。

山崎委員

- 大変なことはよく理解しておりますけれど、ざっと見たところでも、誤解を招くような事実誤認をしている箇所がいくつかあります。スケジュール有りきで闇雲に進めるのではなく、是非、事実誤認や誤解を招く表現のチェックを行った上で、刊行していただくように、よろしくお願いします。

坂下委員

- 内容のチェックは企画編集部会で行うものですので、山崎委員からも出しているだけでいいと思います。

山崎委員

- 後で事務局を通じてお知らせします。

桑原編集長

- ほかにございますか。

小内委員

- 3月の末に予定されている会議では、事前にブラッシュアップされた解説文が送られてきて、それを元にもう1回チェックするというスケジュールでしょうか。

吉原室長

- そのとおりです。

桑原編集長

- 予定した議題は以上ですが、全体を通じてご意見、ご質問ございませんか。事務局から何かありますか。

吉原室長

- 次回は、今も話題になりましたが、3月29日火曜日15時から、この510会議室で行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

桑原編集長

- 以上で第2回の企画編集部会を終了します。皆様お疲れ様でした。